

通知票もらいの日の保護者の皆様の過ごし方を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

子どもたちにとって、1 学期に 1 回は必ず訪れる終業式の日が明日からの休暇に入れる楽しい日でもあります。その学期の成績が渡される憂鬱(ゆううつ)な日でもあります。そこで、今日は、通知票もらいの日の保護者の過ごし方、心構えをみなさんと一緒に考えようと思います。

2. 通知票もらいの日には家庭の中で楽しい行事を計画しよう

①よく考えれば、小学校入学から高校卒業までの 12 年間に毎学期の終業式の日には 1 年に 3 回合計 36 回も通知票もらいの日があります。子どもの教育を担当する保護者の皆様は、子どもがよく育つようにどうかこの 12 年間 36 日の過ごし方を少し「戦略的」にお考えになることをおすすめします。

②「お前は他の人と比較してダメだから、もっと勉強しなさい。」と 12 年間に渡り 36 日保護者からなじられた場合の教育効果は、余り人格形成に良いとは思えません。

③それよりは、通知票もらいの日には、御家庭の中で何か楽しい心温まる行事を「年中行事」として「戦略的に」計画なさることをお勧めします。余り、お金をかけなくてよいですから、何か手造りの料理を 1 つ準備なさり、通知票もらいの夜にはミニ・ミニ・パーティーをお開きになるのも 1 つの「手」です。「1 学期よくがんばったね。〇〇ちゃんのがんばりに、かんぱい、来学期もがんばろうね。」という感じで軽く保護者の方があいさつして、みんなで一口、二口、ごちそうを食べることは素晴らしい家庭教育です。

3. 「知性」を磨くことを心掛けよう

知性は磨き続けなければ光輝くことはありません。誰が子どもの知性を磨くかと言えば、家庭では保護者の方です。難しいことは要りません。相手は子どもですから、保護者の方が今一番関心のあることや、夢中になっていることを熱心にお子様に話してあげてください。お子様の世界が保護者の皆様のお話によって一気に開かれます。

通知票もらいの日には、どうかたくさんお子様と語り合ってください、お子様の知性を磨いてあげてください。